

知事挨拶

2010年に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）において、2020年までの世界目標である「愛知目標」が採択されました。これを受けて、本県では、2013年に「あいち生物多様性戦略2020」を策定し、「人と自然が共生するあいち」の実現を目指し、NPO、企業、市町村等、多くの方に生物多様性に関心を持っていただき、皆様の知恵と力を合わせて、生きもののすみかを水辺や緑でつなぐ「生態系ネットワーク」の形成に取り組んでまいりました。

その結果、県内全域を網羅する9つの「生態系ネットワーク協議会」が設立され、NPO、企業、県内の全市町村、教育機関をはじめ延べ286もの団体の皆様に参加いただいております。各協議会では、地域の実情に合わせて工夫を凝らしながら、ビオトープの整備や外来種の駆除、生きもの観察会などの取組を積極的に進めていただいております。

今年2020年は、「愛知目標」の最終年にあたり、これまでの取組の成果を集大成する重要な年であり、次の10年に向けた展望を考えていかなければならない年となります。また、既に世界では、2030年に向けた議論が始まっており、社会全体で生物多様性の価値を共有し、持続可能な社会への転換を目指すことの必要性が強く指摘されています。

このベストプラクティスは、COP10以降の取組を集大成し、さらに取組の輪を広げていただくことを目的にしています。県内から160件という多数の応募をいただきましたことに、深く感謝いたします。応募された事例は、いずれも地域の生物多様性保全に大いに貢献する取組でしたが、特に優れた事例として「ベストプラクティス」20件を選定いたしました。

私たちは、生態系の中で生きる一員として、自然の恵みに支えられ、文化、社会、経済を発展させてきました。人と自然が共生するあいちの実現に向けて、皆様から寄せられた事例が模範となり、それが県内全体に展開されることで「生物多様性の輪」が大きく広がり、生物多様性の危機を乗り越え、さらには国連が定めた持続可能な開発目標であるSDGsの実現にもつながることを期待します。



愛知県知事

大村 秀章

